

伊勢原市青少年育成審議会第3回審議会会議録

〔事務局〕 子ども部青少年課

〔開催日時〕 平成28年6月30日(木) 午後7時～9時

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター

〔出席者〕

(委員) 芦原秀人、宮森孝史、冨塚 正、山元朋美、若松 操、吉田幸代、錦織 勝、
平田順子、玉井ふみ子、河口友喜、峰 孝一、小澤寛治、上條茉莉子、
青木清徳、高橋一枝

(事務局) 子ども部長、青少年課長 外1名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0名

《審議の経過》

- 1 開会 会長あいさつ
- 2 議事 協議テーマ：子ども・若者を育てる地域社会づくり（放課後子ども教室・子ども会のあり方）
 - (1) これまでの振り返りと今後の協議の進め方
 - (2) 放課後子ども教室事業協力者や子ども会会員の現状、課題、理想（あるべき姿）について
 - (3) 理想の実現に向けた策について

議事(1) これまでの振り返りと今後の協議の進め方

(事務局)

○昨年度の審議会の協議経過について報告

○今後の協議は、放課後子ども教室と子ども会を対象を絞って、それぞれの課題や理想（あるべき姿）等について話し合うことを提案

(会長) 今後の進め方について質問等あるか。

(委員) 現在、放課後子ども教室は2校でやっているが、3校目以降の実施の検討でよいか。

(事務局) 今の2校の実施について見直しの必要があると思うし、また、将来に向けて事業展開していくにあたっての課題等について協議したい。

(委員) 3校目は竹園小学校区で、今人材を募集し始めているようだ。

(会長) 今年度から始まる竹園小のことが出てきたが、今回は放課後子ども教室と子ども

も会の2つに絞って話し合いを進めてよいか。

(委員) ~全員同意~

議事(2) 放課後子ども教室事業協力者や子ども会会員の現状、課題、理想(あるべき姿)について

(事務局)

○放課後子ども教室の事業概要と課題説明

課題

・事業協力者は保護者世代が少なく、高齢者世代が中心である。また、新規協力者の確保が進まず、後継者が育っていない。

理想(あるべき姿)

・地域の方が世代交代をしながら、継続して協力してくれること及び将来は地域主体の事業として実施されること。

○子ども会の現状と課題説明

課題

・少子化により子どもが少なくなった以上に、子ども会への加入率が低下している。主な原因として、「役員になりたくないから、役員になりそうだから辞める」等の話を聞くが、一方役員を経験すると活動の楽しさに気づくことも多いようだ。

・子どもの保護者だけで運営しているところは存続が厳しい。継続して安定した活動をしているところの中にはOB、OGが積極的に運営に関わっているところもある。

・地区行事をこなすことに精一杯である。

・1年で役員が交替するため地域活動に慣れていない役員が多く、地域にいろいろなことを頼みづらいこともある。

理想(あるべき姿)

・無理をせず、自分たちができる範囲の活動でよしとすること。

・安定的な運営のためにOB、OGが運営のサポートをしてくれること。

・地域の団体・機関が運営を協力してくれること。

○各々の課題や理想(あるべき姿)に対して参考となる事例の紹介

(会長) 放課後子ども教室と子ども会について説明があった。それぞれ分けて質問を受けたい。

(委員) 質問ではないが、所属する団体で放課後子ども教室に関わっている。今月は2回ドッジビーを子ども達と一緒にやる予定。協力の中心は50代、60代の役員であるが、今年度改選があり、協力できる人数が減ってしまった。人材確保はその団体でも課題である。

(会長) これまで放課後子ども教室を見に行ったり、関わったりした方はいるか。

- (委員) 開校当時に出席しただけだが、盛況であった。
- (会長) 指導者は保険に入っているか。
- (事務局) 市民活動保険に入っている。
- (委員) 足代はいくらか。
- (事務局) 1回の協力につき交通費相当として1,000円支払う。団体は2名分を上限に支払う。
- (委員) 将来的には地域主体の事業として実施されることを目指しているという話だが、予算は市が出すのか。
- (事務局) 今後の検討となる。
- (委員) 参加費は取っていないのか。
- (事務局) 材料費相当額をいただく場合があるが、基本的に参加費はもらっていない。
- (会長) 事業に関わっている方から意見を聞きたい。
- (委員) 2回しか参加していないが、地域の中には埋もれている人材がたくさんいると思う。どのように人を集めるかという点で、資料に書かれている人材バンクはともよいと思う。地域の中の埋もれた人材をどのように発掘するかが、一番の課題だと思う。それには地域で情報を提供してくれる方をまずは探すことである。
- (委員) 例えば「私はけん玉が得意です」という人がいても、子ども達は興味を持たないと集まってこないということがある。興味を示したものにしか向かわない子ども達に、興味を引くものを提供することが大事だと考える。
- (会長) 放課後子ども教室を手伝ってもらうスタッフの募集方法はどうなっているか。
- (事務局) 市のホームページや広報いせはらで募集したり、現場にきた保護者に声かけをして協力を求めている。
- (委員) 私も広報を見て採用された一人である。伊勢原小や石田小で講師をしたり、見守りをしたりしている。
- (会長) 例えば、年に何回ぐらい講師をしているか。
- (委員) 年に数回である。
また、こういう内容をやっている知らせないと、子ども達は来ないと思う。そのために事前に事業予定を作って知らせている。
- (会長) 竹園小学校区の事業を検討する中で、現役の保護者はどのくらいいるか。
- (事務局) 今のところPTA役員に関わっていただいている。
- (委員) 竹園小学校にはボランティアのグループがあって、いろいろな事業に関わっている。もしかしたら、平日も協力してくれるかもしれない。
- (委員) 竹園小学校区には地付きの方が多く、年配の方の中に協力的な人がいるかもしれない。
- (会長) 眠っている人材をどうやって掘り起こすかという課題がある。
- (委員) 平成27年度の子ども会の加入率が33.1%とあるが、私の住む地域では夏

祭りの踊りに参加するのが子ども会に入っている子ども達である。子ども会に入っていない子どもは参加しにくい。これは不公平だと思う。自治会費は同じ様に集めているのに、子ども会に入っていないと参加しづらい。

単純な問題ではないが、これからは子ども会を自治会の組織に入れていくようにしないとやっていけないと思う。

- (会 長) 公民館などで盆踊りの練習を子ども会が中心になってやっているところがあるが、続けるのが難しいというところはあるか。
- (委 員) 比々多地区では夏祭りの主催が商工会である。子ども会はそれに参加して、来た子ども全員に花火を配布している。
- (委 員) 高部屋地区では公民館だよりで子ども会の会員でなくても夏祭りに参加できるという内容で知らせた。しかし、入っていない子どもの方が多いので、子ども会に入っているメリットをもっとアピールしないと、入る必要性を感じないと思う。
- (委 員) 基本的には全員の子どもに入ってほしいのだから、自治会の中に入れて方がよい。子ども会の会費があるから、夏祭りでも子ども会の子しか物をあげられないことが起こる。自治会の費用で何とかしようと、今考えている。
- (委 員) 子ども会の事業に魅力がないのだろうか。今の子ども達はスポーツクラブに入って野球、サッカーなどの活動と子ども会の活動を比較して、子ども会の活動に魅力があれば、スポーツクラブを休んでも参加すると思う。メリットを感じないから参加しないのだと思う。
- (委 員) 自治会の中に入れば、役員も OB、OG になってもらえる。
- (委 員) 私の地区では子ども会が休止している。自治会でバックアップするといっても、結局一年半たっても何もしないでいる。元青少年指導員の協力を得ようとか、自治会の下部組織に入れようかとも思うが難しい。
- (委 員) 自治会の組織に入ったが、子ども会の役員が、自治会の会議にも参加しなくてはならないため、それが負担でやめたという話もある。お父さんやお母さんの意識が高くても、長年自治会をやっている方の高圧的態度にうまくいかなかったということもある。
- (委 員) 成瀬地区は全員が子ども会に入る形になっている。過去に活動の中心であった地元の方が学校や子ども会の人と話し合っただけで決めたと思う。子ども達はスポーツクラブもあるが、子ども会の行事にも参加しているようだ。一方、お金を払うだけで参加しない人もいる。
- (委 員) 子ども同士でふれ合う機会が多いか。私の地区のスポーツ少年団は週に何回も子ども同士がふれ合うが、そうでないとラジオ体操などもやってないので、子ども達は会う機会がない。
- (委 員) 成瀬地区では新入生歓迎のボウリング大会、ドッジボール大会、クリスマス会、卒業生を送る会といった行事がある。

- (委員) 子ども会に入っているメリットがあると、加入率は高くなると思う。
- (委員) 子ども会単位で夏祭りに出店するし、学校のふれあい祭りにも子ども会ブースがあつて予算を使っている。皆、子ども会に入っているという意識はあると思う。
- (委員) 自治会の組織に入れば、子育てが終わったOB、OGに役員をやってもらうこともでき、多少違うかと思う。
- (委員) 高部屋地区では以前は20の単位子ども会があつたが、今は11である。地区の子ども会を増やすために、行事を見直したり、イベントを考えたりしていた。でも、役員を辞める方も出ている。厚木市青少年課で聞いた話では、子ども会のサポーター制度があり、子ども会の経験者やジュニアリーダーなどがお手伝いをしているとのことだった。OB、OGの方の支援を受けようかと考えてみた。
- (会長) ボランティアをやって地域の方と話すことができるようになって、だんだん元気が出てきた。先ほど出ていた人材バンクやサポーターを育成する、集めるということがあると人が出てくると思う。
- (委員) 青少年指導員や各団体を退いた方が、サポーターとして加わってくると理想的だと思う。そういう組織ができるといい。
- (委員) 子ども会では親が役員をやっているのが負担になっているようだ。
- (委員) 保護者が役員でなくなれば、加入率も上がる気がする。
- (委員) 今の親は忙しいと思う。子育てと仕事の両方を持ち、自分の子育てで手一杯であるため、よその子の面倒を見られないようだ。
- (委員) 子ども会と自治会は一緒になっている。保護者の代表は4年生の親がやるようになっている。春・夏祭りの時、世代間交流会をやっており、その時にお手伝いをしてもらっている。子ども会ではなくても、誰でもいいから参加できるようになっている。
- (委員) 成瀬地区は全員加入で実情が違うとは思いますが、逆に子育て世代が加わることでうまくいく場合があると思う。そこは他人任せにしないで、自分の子がどういう地域で暮らしているか、地域のどんな人と関わっているのかをその場で知ることができると思う。大変だけれど、そこを楽にしてしまうと、うまくいかなくなる場合もある。
- (会長) 子ども会の活動に学校はどう関わっているか。
- (委員) 学校の説明会の時、子ども会の会長が来て説明してくれる。情報のやりとりもあるようだ。

議事 (3) 理想の実現に向けた策について

(事務局)

- 放課後子ども教室と子ども会の理想を実現するための策の説明

- ・地域で眠っている人材育成のための養成講座実施
- ・地域の人材と育成団体を橋渡しする仕組みとして人材バンクを設置
- ・これらを市全体ではなく地区単位で実施。拠点を地区公民館に置く。
- ・参考となる他市の事例の紹介

(会 長) 放課後子ども教室、子ども会のスタッフをいかに確保するか、事務局の説明に対し、質問等あるか。

(委 員) 公民館の誰が担当するのか。館長や主事ではできない気がする。地域の人に頼むのは難しいと思う。

(委 員) 公民館を利用している人や団体に声をかけるのか。

(委 員) そうなると、自治会に話が来るのかとってしまう。

(委 員) ドイツではこういうプロジェクトがあって、州がお金を出して成功させた例もある。将来的にはコミュニティビジネスにつなげていくという構想で立ち上げたケースがいくつかある。その報告書を読んで私も「ジージとバーバ」というプロジェクトを広めたいと思い、活動している。構想としてはいいので、管理者がきちんとしていればできると思う。NPO に受けてもらい、どうやって企画するか、人材のテクニックを持った人に子どもたちを上手に指導するための教育のプロジェクトとか、安全管理の問題をどうするか、親子世代とボランティア世代をどうコミュニケーションを取っていくかなどのプログラムをしっかりと立てないとうまくいかないと思う。

(委 員) 管理運営をどうするかもあると思う。

(委 員) 予算もあると思う。

(会 長) 皆さんの意見と事務局の案が概ね一致していると思う。具体的に管理運営はどうやるのかなどという問題はあと思うが、何かうまく立ち上がった後で1人に負担がいかないように進めることができればよい。

(委 員) 皆を引っ張ってけるような方が必要。

(会 長) 公民館の市職員は何人くらいいるのか。

(事務局) 館長と公民館主事の計2人。

(会 長) 先日青少年指導員の研修があった。以前青少年指導員をやっていたので、顔を出し手伝いたかったが、参加しにくかった。参加しやすさができるとよいと思う。

(委 員) 高部屋地区では青少年指導員のOB、OG会がある。辞めた方でたまには参加したり、手伝ったりしたいという方もいるので交流会を設けた。現役とOB、OGが交流し、輪を広げている。他の団体でもこういう交流を続けていくと、人材確保に有効であると思う。

(委 員) 大田地区には公民館とコミュニティセンターがある。以前から施設を統合しようという構想があるが、なかなかうまくいかないようだ。今まで利用していた人

たちが困らないようにとお願いしている状況である。

(委員) 社会教育委員会議でもそのことをずっと協議しているが、いろいろな意見が出て決まらず、時間がかかっている。新しい施設を優先するようにした方がよいと考えているが、古い施設に愛着を持っている方もいるようだ。

(委員) 今まで使っていた人ができなくなると困る。

(会長) 先ほど話があった NPO についてよく分からない。どのように立ち上げるのか分かる人はいるか。

(副会長) 設立基準を調べて立ち上げることとなる。人数は少なくとも設立できる。設立よりも解散の方が大変だ。経験では設立するのに半年くらい、解散に2年くらいかかる。

(委員) 管理運営を行う方として、シルバー人材センター等、全国規模の組織を利用できないか。

(委員) シルバーの方は何百人もいるけれど、仕事の多い方は一部で、待機している方が多いようだ。

(委員) これは仕事を紹介する組織なので、少し違う組織だと思う。

(会長) 元気な方はたくさんいるので、こういうことが認知されてくるとうまくいくような気がする。

(委員) 登下校の見守り隊の高齢者の中に「すごい芸ができる人がいる」と子どもが言っている。地域には芸をもっている方もいるようだ。

(委員) 地域でミニサロンを始めた。そのメンバーが、小学校の「昔遊び」の時間に向いて子ども達に昔遊びを教えている。

(委員) 小学校のクラブで「昔の遊びクラブ」というのがあって、民生委員や婦人部の方々が手作りの絵等を使ってお話をしたりしているようだ。学校にはそういうノウハウがあると思う。

(委員) 学校行事で地域の方が講師になってわら草履づくりを行ったが、高齢化によって辞めてしまった。

(会長) 子ども会でも放課後子ども教室でも、主体は学校に行っている子どもたちだから、その公民館のある地域の学校と連携して、地域の情報を集めていくことが大事だろう。

(委員) 学校には地域連絡協議会があって、その中で情報交換があると思う。

(会長) 少しずつ見えてきたものがあるようだ。他に質問はあるか。

(委員) 厚木市の視察で事例を教えてもらったが、同様の内容について他市の情報はあ

るか。

(事務局) 確認する。

3 閉会

(副会長) 理想(あるべき姿)については、皆さんの意見の中でも出ているし、見えているところだろうと思う。

学校と地域の関係の中で、地域意識がずいぶんと変わってきていると感じる。例えば、元々子どもも学校も地域のものだったはずなのに、地域の中で学校が生きにくくなっている。もう20年くらい前であるが、横浜市の学校長から聞いた話では、「隣の家の子どものピアノがうるさいから注意してくれ」と学校に電話がかかってくるような地域のため、運動会を始めるにあたり、教頭と手分けして地域の人に「少し音がします」とか「砂が舞うかもしれません」と事前に許可をとったようだ。そういう時代になったのだなと思った。

子どもから地域はつながっていたはずなのに、今はそうではなくなった。子どもが中心になって地域があったはずなのに今は逆転している。子ども会の活動をするとき、自治会の活動をするとき、子ども自身はその地域に住んでいて、そこを好きになっているかどうか、というのが変わってきている。学校がある、だからたまたまそこにいる、という子どもが増えてきている。

重要なのは、子ども自身に地域で生きている意識を、ちゃんと持ってもらうことだと思う。地域の方も、自分の家に子どもがいなくなったから、子ども会活動は全然関係ないと思ってしまう。つながりがなくなると、子どものことを忘れ、学校が邪魔者になってしまう。子どもを皆で育てるということを、もう一度ちゃんと取り戻さないといけないということを感じている。

最近NPOの活動として第一回目の「子ども食堂」を実施したところ、80人を越える客が来店した。来てくれて嬉しかったのが一つと、次に学習支援の会を開くことも考えていこうかと思った。

子どもの居場所を大人が工夫して作っていかないと、子どもが居られる場所がなくなっているという状況は、大人に責任があるという気もするし、そういった意味で地域意識、地域性を皆で取り戻せるようになればいいと思う。そのような活動の一つの方向性が、今我々が協議していることに結びついてくるとよいと思う。